セノー株式会社 （セノーはミズノグループ一員です）

機缶健保健康企業銀の認定第1号（2019～）

R4（2022）
11/24訪問時

右から
染谷様（管理部部長）
土肥様（事業戦略部）

代表取締役：山本　泰広

本社所在地：千葉県松戸市松飛台250

事業内容：スポーツ用品製造

従業員数：224名（当組合所属グループ連結：359名）

1908年創業より、100年以上の実績とノウハウに裏打ちされた情熱により、スポーツ分野の施設・設備・用具等では国内シェア約60%をほこり、誰もが見たことのある「Senoh」ブランド。また、国内だけではなく海外からも評価され様々な国際大会へのサプライヤーとして認定を受けている。今後も「スポーツと健康の未来を創る」というブランドスローガンの下、培った実績を生かし、時代の変化（SDGs）に対応した新たな健康事業を推進する企業様です。

・健康企業宣言に取り組むきっかけは？

健康事業に取り組む企業として、まず自社で健康経営に取り組むことが必要だと考えたためです。また、親会社であるミズノ株式会社が先行して健康経営に取り組む中で、よいお手本が身近にあったということもあります。

・取組みに際し、苦労した点は？

拠点が地域ごとに分散してたり、ノウハウの無さから自社単独ではなかなかイベント等を開催できないことです。ただし、その点はミズノの取組みに参画させてもらうことで補うことが出来ました。

・健康経営を取り組んでよかった点は？

従業員の健康やスポーツを取り組む意識が向上したのではないかと考えています。その一例が水泳同好会やトレーニング部の活動に現れています。スポーツメーカーの利点を生かし、トレーニング部においては、自社製品のトレーニング器具を有効活用し、またそこに集まる性別・年代・部門の枠を超えた交流が生まれ、新たな事業展開へのヒントも発見できた。そのように、社員一人一人の健康に対する意識が上がったことで、新たなコミュニケーションの場が作られたことも良かった点です。

・健康経営を推進するうえで、どこを重要視されたのでしょうか？

全社員にこの取組みを伝えて、自分自身の健康についての意識を高めていくことが重要と考えています。そういった意味では、まだまだ情報発信もしていかねばなりませんし、自社に合ったオリジナリティのある活動も進めて行きたいと思っています。

・今後の目標をお聞かせください？

健康経営に取り組んだ結果としてのエビデンスを明確にできるようにしていきたいと考えています。それは、取り組む社員にとっての「自己評価」にもつながりますし、ひいては自社の健康事業の推進にも活かしていけると考えるからです。この健康経営を通して、社員一人一人がいきいきと働くことが出来る環境を作ることで、「スポーツと健康の未来を創る」という弊社のブランドスローガンの下に、この取組みが多くのお客様の健康に結びつくと考えております。先にも取り上げた、トレーニング部のような活動を通じ、お客様の健康課題に対してソリューションを提供できるようにしていきたいと思っております。

こちらは、なんと60年前の東京大会で実際に使用されたあん馬だそうで、歴史を肌で感じました。